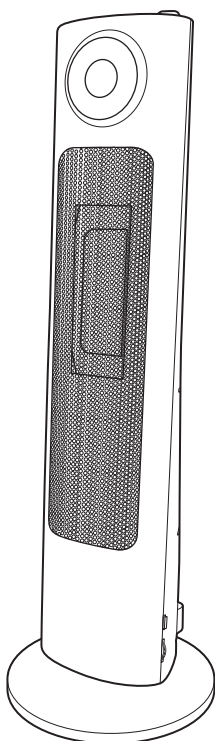


加湿セラミックヒーター CHQ-121K

取扱説明書・保証書



このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保存してください。

※ 本機はお客様組み立て商品となっています。

も く じ

安全上のご注意	P. 2～3
各部の名称とはたらき	P. 4～5
組み立てかた	P. 6
正しい使いかた	P. 7～11
お手入れと保存	P. 12～14
修理・サービスを依頼する前に	P. 14～15
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

仕 様

型 名	CHQ-121K
電 源	AC100V 50/60Hz
定格消費電力	1200W (800W)
ヒーター	PTCヒーター
安全装置	転倒オフスイッチ (内蔵タイプ) / 温度ヒューズ / NTCサーミスタ
加湿性能	1時間当り 約300ml (最大) (加湿量無段階設定可能)
連続加湿時間	約5時間 (最大加湿量の場合)
水タンク容量	約1.6L
電源コード長さ	約1.8m
外形寸法	約 幅28×奥行28×高さ85cm
質 量	約4.0kg
付属品	プレフィルター×1 (本体に取付済)、ベース部×1、ベース部固定ねじ×2、リモコン×1、リモコン用ボタン形電池 (CR2032) ×1、専用ブラシ (本体に取付済)、取扱説明書・保証書 ×1

- 仕様等は改善・改良のため、予告なく変更することがあります。
- この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。
(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⓪は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⓪の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

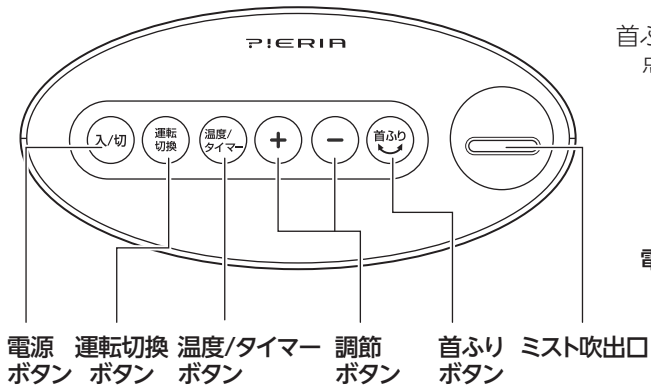
 禁止	交流100V以外では使用しない。 火災・感電の原因になります。	 使用禁止	可燃性ガス・腐食性ガスが発生する場所、たまる場所では使用しない。 割れ・穴あきが生じ、引火・漏電の原因となります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。	 指示	電源プラグはコンセントの奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火の原因になります。
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		定格15A以上の壁コンセントを単独で使う。 他の器具と併用するとコンセント部が異常発熱して発火するおそれがあります。
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使用しない。 けが・やけど・感電の原因になります。		電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。	 プラグを抜く	使用後は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。 火災や故障の原因になります。
	スプレー缶などを本体の近くに置かない。 爆発や火災の原因になります。		お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜く。 感電・火災・けがの原因になることがあります。
	本体に衣類やふとんなどを掛けて使用しない。 過熱や火災、やけどの原因になることがあります。	 分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシシャお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。
	就寝中は使用しない。 寝具などが触れて火災の原因になります。	 ぬれ手禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。
 使用禁止	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を停止する。 火災・感電の原因になります。	 水ぬれ禁止	水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。

注意

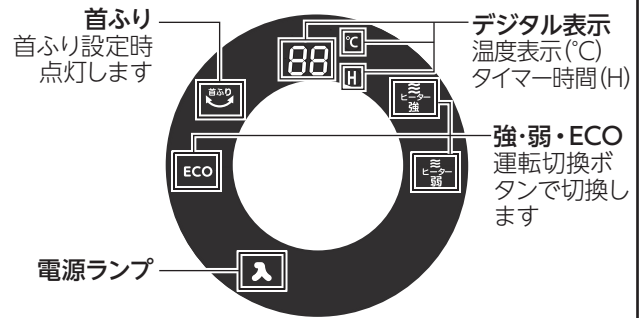
 禁止	お手入れや持ち運び、保存の際は、本体が冷めてから行なう。 火災ややけどの原因になることがあります。	 禁止	使用中は本体から離れない。 火災の原因になることがあります。
	壁や家具の近くで使わない。 熱や加湿で壁や家具が変形・変色したり、火災の原因になることがあります。		犬やネコなどのペット暖房用には使用しない。 ペットが本体や電源コードなどを傷め、火災の原因になることがあります。
	不安定な場所や熱に弱い敷物の上で使わない。 けがや火災の原因になることがあります。		お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。
	カーテンやふとんなど、燃えやすいものの近くで使わない。 火災の原因になることがあります。	 指示	電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグをもって引き抜く。 感電やショートの原因になることがあります。
	乾燥など他の用途に使用しない。 過熱して発火の原因になることがあります。		運転をする際は、必ず後カバー、プレフィルタを取り付ける。 フィルタを取り付けずに運転すると、火災や故障の原因になることがあります。
	湿度の高いところ(85%以上)では使用しない。 故障の原因になります。特に加湿機能を使うと、室内を濡らすことがあります。		加湿機能を使用しないときは、水を捨てる。 使用しない水をそのままにしておくと、カビや雑菌が繁殖し異臭の原因になります。 使用しないときは、水タンクと加湿ベースの水を捨ててください。
	ミストが直接、家具・壁・カーテン・天井などにあたるところで使用しない。 家具・壁に染みがついたり、変形の原因になります。 本体を壁、家具、カーテン、寝具などから離してご使用ください。		水タンクおよび加湿ベースの水は毎日新しい水道水と入れ替える。本体内部は常に清潔を保つよう定期的にお手入れする。 お手入れせずにお使いになると、汚れや水アカにより、カビや雑菌が繁殖し、異臭の原因になります。まれに体質によっては、過敏に反応し健康を害することがあります。この場合は、医師に相談してください。
	傾いた場所や棚などの高い場所・不安定な場所には置かない。 転倒すると本体の破損、けがの恐れがあります。		凍結に注意する。 凍結のおそれがあるときは、本体の水を捨てる。
	暖房運転中、温風吹出口に触れない。 やけどやけがの原因になることがあります。		本製品の近くに携帯電話やパソコンなどを置かない。 加湿運転中は製品周囲の湿度が高くなりますので、製品の近くに置かないでください。
	温風吹出口・吸気口、ミスト吹出口をふさがない。 変形や故障の原因となります。		使用中や使用後しばらくは、温風吹出口(高温部)に触れない。 やけどの原因になることがあります。
	水道水以外は使用しない。 一般的に水道水は塩素殺菌処理されており、雑菌が繁殖しにくいからです。ミネラルウォーター、アルカリイオン水、井戸水、浄水器の水を使用すると、カビや雑菌が繁殖しやすくなったり、水アカが多くなったりして、異臭の原因になります。	 接触禁止	本製品はテレビ、ラジオなどから2m以上はなして設置する。 雑音の原因になる場合があります。
	お湯は使用しない。 40℃以上のお湯を使用すると、変形・誤動作の原因になります。	 注意	本体を傾けない。 水タンクに、水を入れたまま本体を傾けると、水がこぼれる恐れがあります。
	アロマオイルなど芳香剤を水タンクへ絶対入れない。 本体の破損、故障の原因になります。		

各部の名称とはたらき

操作部



表示部



※表示ランプは約1分間操作されないと、暗くなります。再び操作されたときには、明るくなります。

表示部
リモコン受光部

前ガード

温風吹出口

加湿ランプ

加湿ダイヤル

ベース

本体

ミスト吹出口

取っ手

リモコン収納部

後カバー

吸気口／プレフィルター

水位窓

水抜き穴カバー

栓

(栓をはずすと水抜き穴があります)

電源プラグ

安全装置について

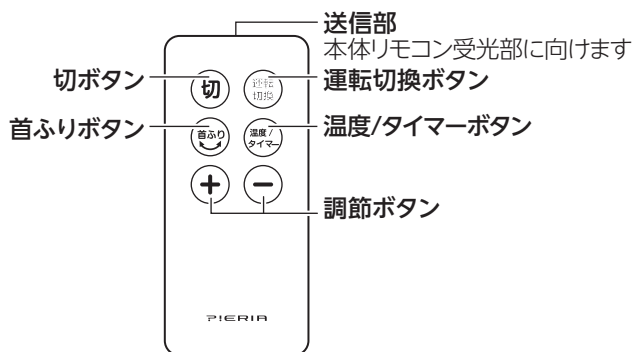
- 使用中に転倒したときは、転倒オフスイッチが働き、電源が切れます。
 - 温度が上昇しすぎると、NTCサーミスタが働き、自動的に運転を停止します(温度が下がってから再度電源を入れてください)。
- さらに温度が上昇すると、温度ヒューズが働き、運転回路を遮断します(温度が下がっても運転は開始されません。販売店またはドウシシャお客様相談室(裏表紙参照)にご連絡ください)。



注意

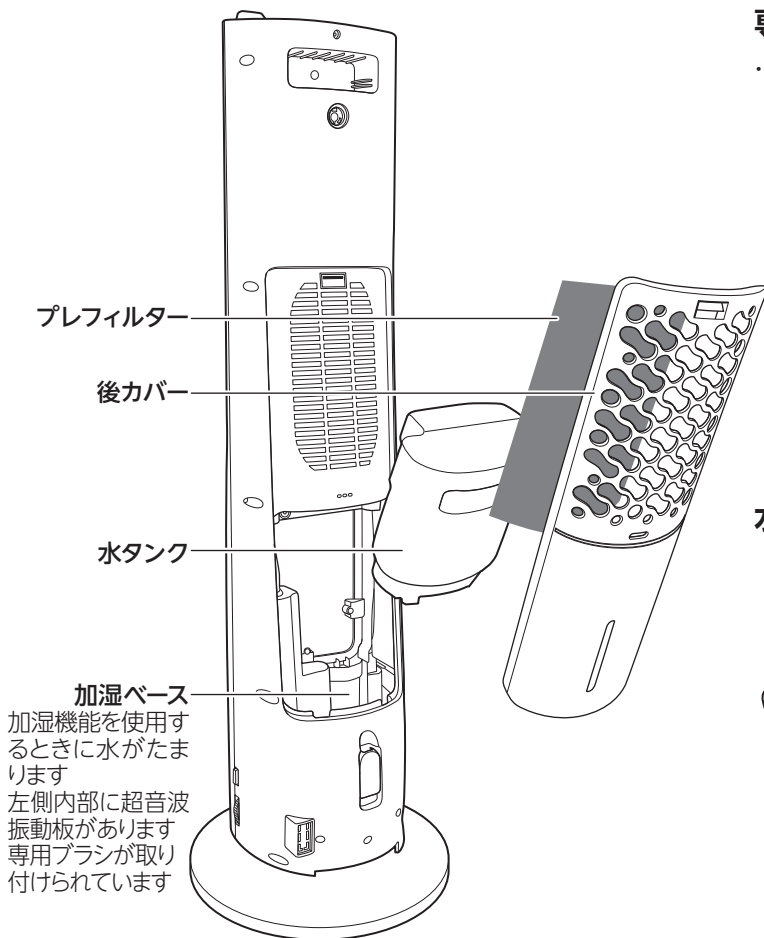
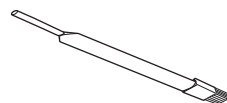
- 使用中は本体から離れない。
- 本体を移動させる場合は、本体が冷めてから取っ手を持って移動させる。
- 使用中や使用後しばらくは、温風吹出口に触れない。

リモコン

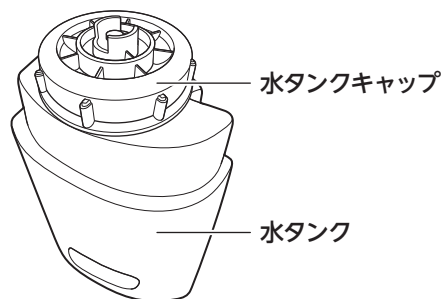


専用ブラシ

・加湿ベース内に取り付けられています。



水タンク



⚠注意

- ・ アロマオイルなど芳香剤を水タンク・加湿ベースへ絶対入れない。
本体の破損、故障の原因になります。
- ・ 本体を移動させる場合は、先に水タンクをはずし、加湿ベースの水を捨てる。
水タンク及び加湿ベースの水がこぼれるおそれがあります。
- ・ 後カバー・プレフィルターを必ず取り付けて使用する。
取り付けないで使用すると故障の原因になります。

組み立てかた



- ・組み立てを行わず（ベースを取り付けずに）運転をしない。
- ・組み立てを終えて、正しい位置に設置してから電源プラグをコンセントに差し込む。
- ・吸気口・温風吹出口をささぎるような環境には置かない。

本体の組み立てかた

1. 本体をテーブルなどの上に寝かせる

本体やテーブルなどにキズが付かないように、テーブルなどには大きな布を敷いておいてください。

2. 本体からベース固定ねじを取りはずす

製品出荷時に本体に取り付けてある、ベース固定ねじを取りはずしてください。

3. 本体にベースを取り付ける

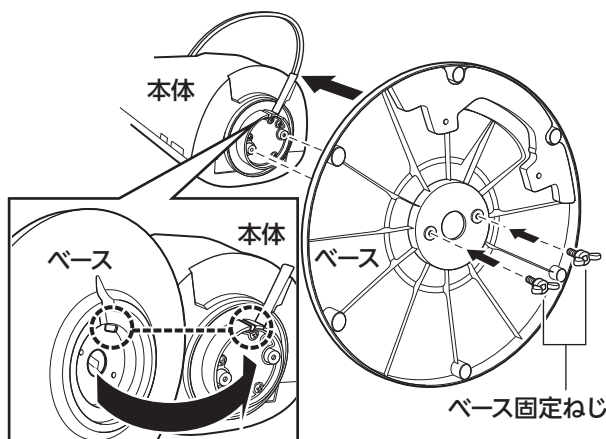
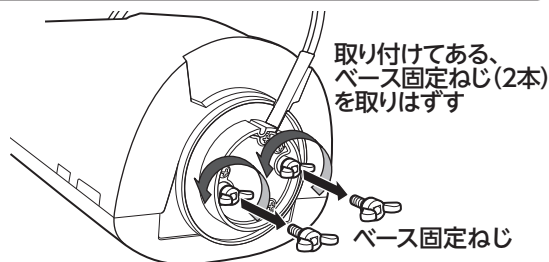
ベース固定ねじを使って、ベースを取り付けます。

- ・本体にベースを取り付け（本体の凹部とベースにある凸部を組み合わせる）、ベース固定ねじでしっかりと固定します。
- ・本体を載せていたテーブルなどから十分気をつけておろし、床に設置してください。

本体を動かすとカラカラと音がすることがありますが、これは転倒オフスイッチ（安全装置）の音であり、異常ではありません。



ベース取り付けるときに指や電源コードなどをはさまないようにする。



本体にある凹部と、ベースにある凸部を組み合わせる取り付ける

リモコンに電池を入れる

1. 電池ボックスをリモコン本体から引き出す①

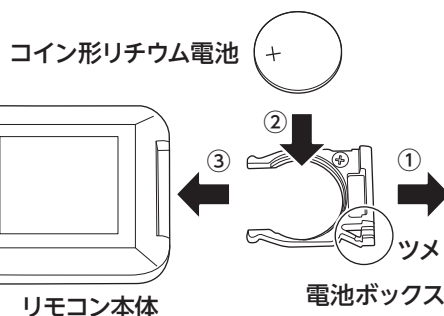
電池ボックスのツメを内側に倒すようにして引き出します。

2. 電池の⊕ ⊖の向きに注意して電池ボックスにセットする②

電池の⊕側を上にしてセットしてください。

3. 電池ボックスをリモコン本体に差し込む③

カチッと音がするまで差し込んでください。



使用可能範囲

- ・本体正面から直線で約6m
- ・本体正面から左右に約30度
- ・リモコンと本体の間に障害物がある場合は、リモコンが正常に動作しないことがあります。



- ・電池の寿命を長くするため、長時間使わないときは電池を取りはずす。
- ・電池の破裂や液もれを防ぐため、⊕ ⊖を正しく入れる。
- ・電池の充電・ショート・分解・火への投入・加熱などはしない。
- ・万一、液もれが起こったときは、よくふき取ってから新しい電池を入れる。

正しい使いかた

使用前の準備

1. 本体を水平な場所に設置する

安定した水平な場所に設置してください。



テレビ、ラジオなどから2m以上はなして設置する。
雑音の原因になる場合があります。

2. 本体を正しく設置する

安定した水平な場所に設置してください。(右図)

- ・近くに可燃物がないことを確認し、可燃物がある場合は、移動させてから使用してください。
- ・近くに携帯電話、パソコンなど湿気に弱い電子機器、精密機器などがないことを確認してください。

※本体を動かすとカラカラと音がすることがありますが、これは転倒オフスイッチ（安全装置）の音であり、異常ではありません。

3. プレフィルターを確認する

後カバーにプレフィルターが取り付けられていることを確認してください。

【加湿運転の準備】

(加湿機能を使用しない場合は給水しないでください。)

4. 給水する

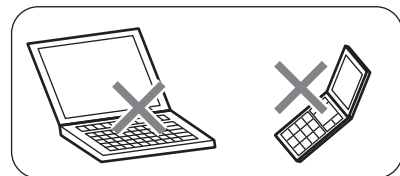
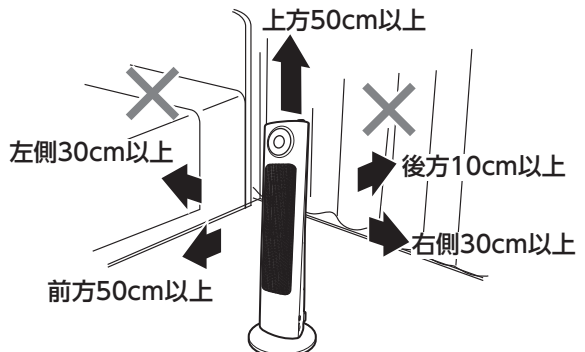
- ① 本体・後カバーを取りはずし、水タンクを取り出します。
- ② 水タンクの水タンクキャップをはずしてきれいな常温の水道水を入れてください。
- ③ 水タンクキャップを確実に締め、こぼれた水をふきとり、水漏れがないことを確認してください。
- ④ 水タンクを本体に取り付け、後カバーを取り付けてください。
- ⑤ 加湿ダイヤルが一番下（切状態）になっていることを確認しておいてください。



・水道水以外の水は使用しない。
・アロマオイルなど芳香剤を水タンク・加湿ベースへ絶対入れない。
本体の破損、故障の原因になります。

本体は壁や周囲から適当な距離を保ってください。(火災の原因になります)

本製品の設置は以下の点に注意してください。

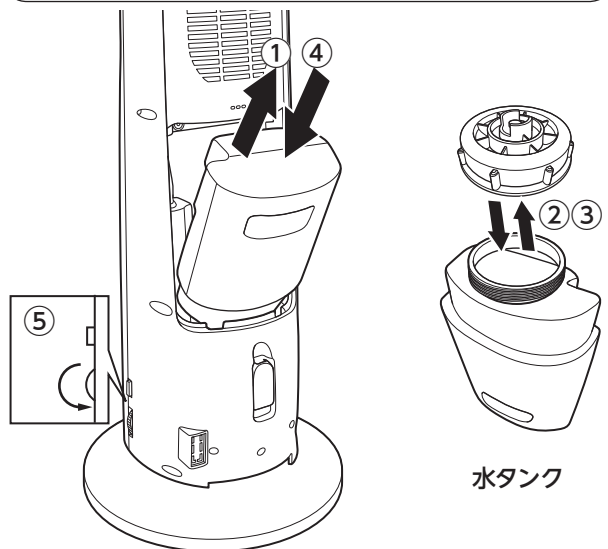


次のような場所では使用しないでください。

※毛足の長いカーペットや座布団の上などの不安定な場所（本体が傾いたり、浮いたりして、転倒したり、転倒オフスイッチの誤動作の原因になります。）

※温風・温風吹出口を壁、寝具、カーテン、家具に向けないでください。

※本製品の近くには携帯電話、パソコンなど湿気に弱い電子機器、精密機器は絶対に置かないでください。



水タンク

正しい使いかた (つづき)

【共通】

5. 電源プラグをコンセントに差し込む

ピーッピーッとブザーが鳴ります。表示部に「入」が表示されます。

警告

- 定格15A以上の壁コンセントを単独で使用する。
他の器具と併用するとコンセント部が異常発熱して発火するおそれがあります。
- 本体に衣類などをかけて使用しない。
火災ややけど、本製品の故障の原因になります。
- 電源コードを束ねたまま使用しない。
電源コードの発熱、発火のおそれがあります。
- 外出等で本体から長時間離れるときは、電源プラグをコンセントから抜く。
安全装置が働いて、ヒーターが停止していることがあります。温度が下がると自動的に運転を開始しますので、消し忘れや火災の原因になります。

暖房機能

1. 本体の(入切)電源ボタンを押して運転を開始する

本体の(入切)電源ボタンを押すと表示部に現在の室温が表示されて運転を開始します。

- 通常の使用時にはメモリー機能により、前回運転停止時の設定で運転を開始します。
- 電源プラグをコンセントに差し込んでから最初に(入切)電源ボタンを押したときは、それぞれ初期設定値で運転を開始します(メモリー機能枠参照)。
- リモコンでは運転開始することができませんので、本体の(入切)電源ボタンを押します。
- 設定温度よりも室温が高いときは、運転が停止し、ファンが停止します。
- [強]モードで運転を開始しても、(入切)電源ボタンを押して運転開始した最初の10秒程度は[弱]モードと同じ動きをします。

メモリー機能

本体の(入切)電源ボタンを押すと、前回の設定で運転を始めます(設定温度、強/弱運転、首ふり)。

※電源プラグをコンセントからははずすと、初期設定にリセットされます。

[初期設定] 設定温度: 25℃、強/弱運転: 弱、首ふり: なし

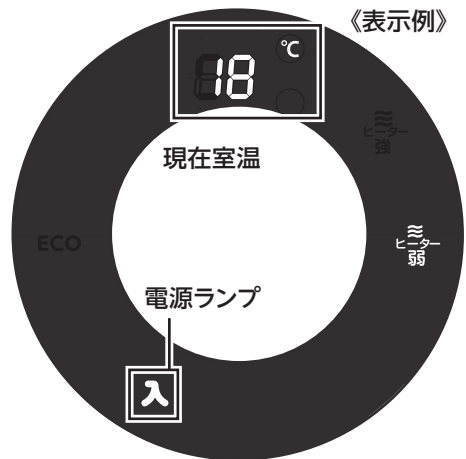
注意

後カバー、プレフィルタを取り付けずに運転しない。
ホコリなどを吸い込んでしまい、故障の原因になります。

2. (温度/タイマ)温度/タイマーボタンを押して「℃」を点滅させ、(+)(-)ボタンで温度を設定する

- (温度/タイマ)温度/タイマーボタンを押すごとに点滅部分「℃(温度)」[H(時間)]が切り替わります。
- 「℃(温度)」が点滅しているときに、(+)(-)ボタンで温度設定をしてください。
- 設定温度は15℃から35℃まで設定できます。
- 設定した温度が現在の室温より低いときは、運転が停止します。

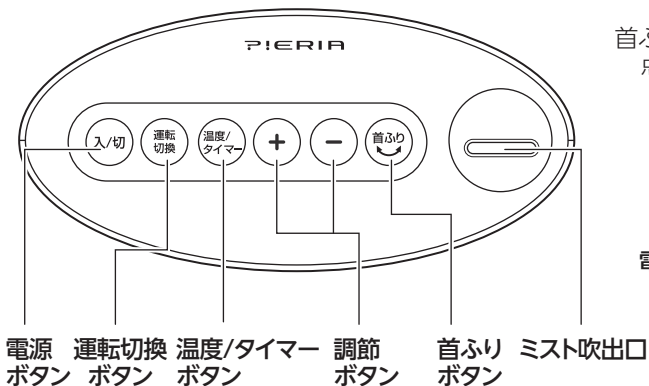
《表示例》



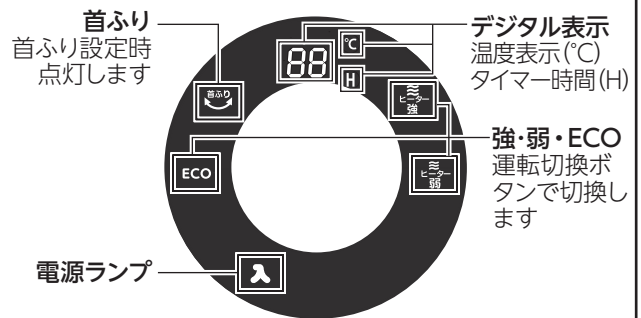
《表示例》



操作部



表示部



※表示ランプは約1分間操作されないと、暗くなります。再び操作されたときには、明るくなります。

3. 運転切換ボタンで運転モードを選択する

運転切換ボタンを押すごとに「弱」から「強」「ECO」に設定が切り換わり、運転モードランプが変化します。

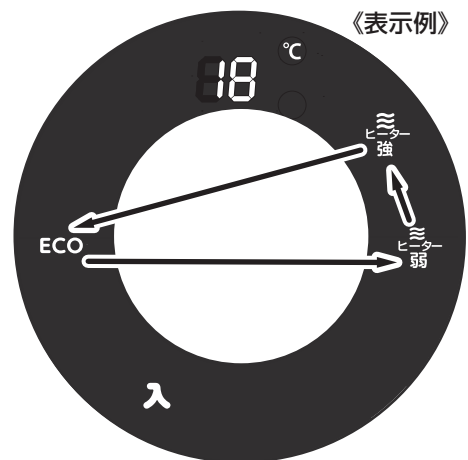
※風量は変化しません。

※「強」「弱」に設定したとき、手順2で設定した温度になると、運転を停止し、温度が下がると運転を再開します。

ECOモードの設定

ECOモードは、基本的に18°C以上22°Cまでを維持するモードです。

- ECOモードを設定したとき、温度が18°C以下のときは「強」運転をします。
- ECOモードで18°C～22°Cは「弱」で運転します。
- ECOモードを設定したとき、温度が22°C以上のときは、運転をしません。



運転切換ボタンを押すごとに

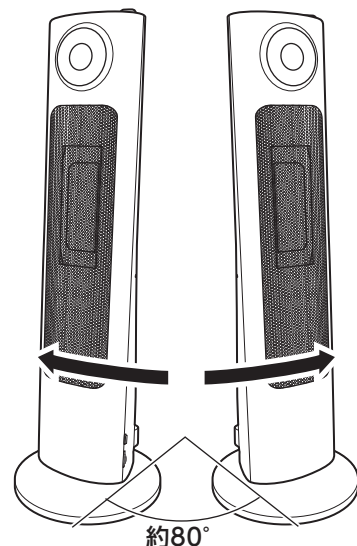
800W 1200W

→ヒーター弱→ ヒーター強→ ECO (温風) (温風)

4. 首ふり運転するときは、首ふりボタンを押す

首ふり運転をすると、ベースより上が左右に約80°動きます。

- 首ふり中に首ふりボタンを押すと、首ふりを停止します。もう一度押すと首ふりを再開します。
- 首ふり運転中は、表示部の首ふり表示が点灯します。
- 手動では角度を変えることができません。無理に向きを変えると故障の原因になります。運転中に首ふりボタンで調節してください。



正しい使いかた (つづき)

⚠ 注意

首ふり運転するときは、温風の方向に十分注意する。

- ・ 温風吹出口の方向が変化し、思わぬ事故の原因になります。
- ・ リモコン受光部も変化するため、角度によってはコントロールできなくなることもあるので、注意してください。

5. (温度/タイマー) 温度 / タイマーボタンを押して「H」を点滅させ、(+)(-)ボタンで切タイマーを設定する

切タイマーは加湿機能には関係ありません。

- ・ 「H(時間)」が点滅表示になります。
- ・ (温度/タイマー)温度 / タイマーボタンを押すごとに点滅部分「℃(温度)」 「H(時間)」が切り替わります。
- ・ 「H(時間)」が点滅しているときに、(+)(-)ボタンで切タイマー時間設定をしてください。
- ・ 1時間単位で12時間まで設定できます。
- ・ 切タイマーを設定したあとでも、運転切換ボタンで運転設定の変更をすることができます。
- ・ 切タイマー設定しての運転時は、温度表示と切タイマー残り時間を交互に表示します
- ・ 切タイマーをキャンセルするには、再度切タイマー時間を「0」に設定します (切タイマーがキャンセルされると、温度表示のみの表示になります)。



《表示例》

6. 電源ボタンを押して運転を停止する

ヒーターを冷やすため、電源ボタンを押してから約10秒間、送風運転を行ないます。

(デジタル表示が10～0までカウントダウンを行ないます)

7. 電源プラグを抜く

ファンが停止したことを確認してから、電源プラグを抜いてください。

⚠ 警告

- ・ ファンが停止する前には、電源プラグを抜かない。故障の原因になります。
- ・ 使用中、使用後しばらくは、温風吹出口など高温部にはさわらない。やけどの原因になります。

正しく電源が切られなかったとき

運転中にいきなり電源プラグを抜いた場合、安全装置が働き、しばらくのあいだ電源が入らないことがあります。

➡この場合は、本機が冷めるまでしばらく (約30分間) 待ってから、運転を開始してください。

運転を停止させるときには、必ず電源ボタンを押して停止させてください。

加湿機能

加湿機能と暖房機能は直接関係ありません。
リモコンは使用できません。

- 暖房機能でタイマーを設定しても、加湿機能は切タイマー時間に反応しません。
- 首ふりによってミスト吹出口位置が変わることがあります

給水方法は7ページをご覧ください。

1. 本体の右下の加湿ダイヤルが一番下にあることを確認する

2. 加湿ダイヤルを上方向に回して（電源入）、加湿を始める

水がタンクに入っていると、加湿ランプは緑色に点灯します。

3. ミスト吹出方向を調節する

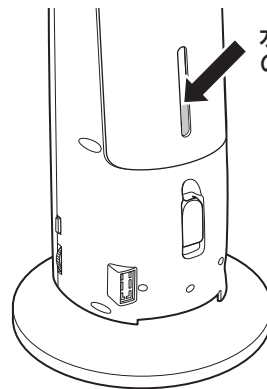
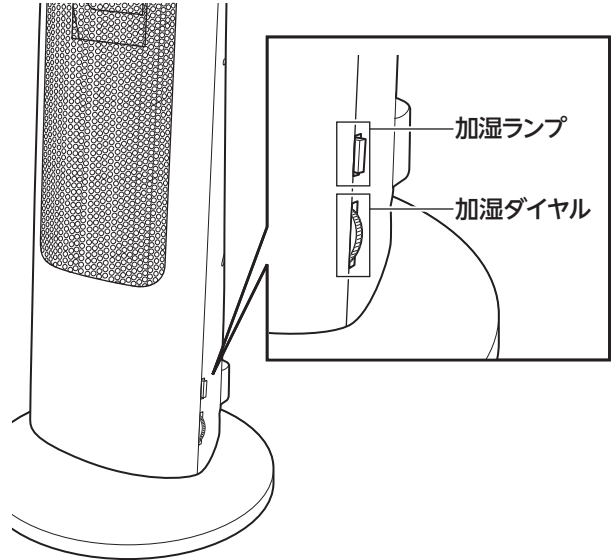
ミスト吹出口を回して、ミストが出る方向を調節します。

※ 暖房機能で首ふり機能を使うときは、注意してください。

4. 加湿ダイヤルを回して、加湿量を調節する

加湿ダイヤルを上へ回すほど加湿量が多く、下へ回すほど加湿量が少なくなります。

※ 加湿量が多い状態で使用を続けると、床などが濡れる原因になりますので、十分注意してご使用ください。



6. 加湿ダイヤルを一番下まで回して（電源切）、加湿を停止させる

加湿ランプは消灯します。

7. 電源プラグを抜く

ファンが停止したことを確認してから電源プラグを抜いてください。



注意

加湿量の調節に十分注意する。

- 加湿量を多くすると、室温が下がったとき、水浸しになってしまう原因になります。
- 加湿量を多くすると、水タンクの水が早くなります。

5. 加湿ランプが赤色に点灯したら、水タンクに給水する

水タンクから水がなくなると、加湿ランプは赤色に点灯します。

電源を切って、水タンクに給水してください。



警告

給水時は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電、火災の原因になります。



注意

定期的にお手入れをする。
「加湿ベースのお手入れ」(13ページ)



警告

- 使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
絶縁劣化による感電、漏電、火災の原因になります。
- お手入れするときは安全のため電源プラグをコンセントから抜く。
感電、火災の原因になります。

お手入れと保存



お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷めたことを確認する。
感電やけが、やけどの原因になります。

本体のお手入れ

本体の汚れは、ぬるま湯か食器用中性洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとり、さらに乾いた布でやさしくからぶきをしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となることがあります。)

お願い

- ※ 住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。
- ※ 化学ぞうきんを使用する場合は、その注意書きにしたがってください。変質・変形の原因になります。
- ※ 本体に直接、水をかけて洗わないでください。(感電・故障の原因になります。)

温風吹出口／吸気口のお手入れ

プレフィルターカバー、吸気口のホコリは掃除機で吸い取ってください。

汚れがひどいときは、プレフィルターを取りはずしてお手入れをします。

プレフィルターのお手入れ

下記の手順に従って行なってください。

- ① 本体から後カバーを取りはずす。
- ② 後カバーからプレフィルターを取りはずす。
- ③ プレフィルターのゴミやホコリを手や掃除機でていねいに取り除く。

※ プレフィルターの汚れがひどい時は、ていねいに水洗い(手洗い)をしてください。強くこすったり、ねじらないでください。破損の原因となることがあります。

- ④ プレフィルターを後カバーへ取り付ける。
※ プレフィルターを水洗いしたときは、十分に乾燥させてから取り付けてください。

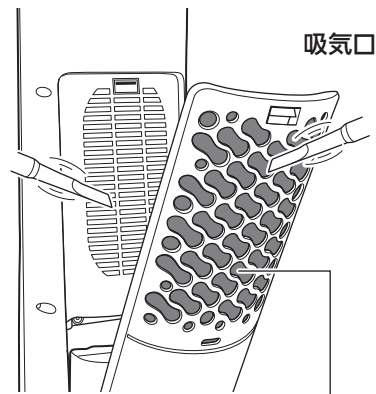
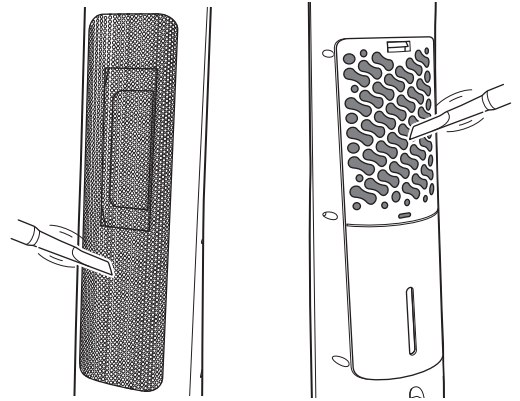
- ⑤ 後カバーを本体へ取り付ける。

※ お手入れのあとは、必ずプレフィルターを取り付けてください。

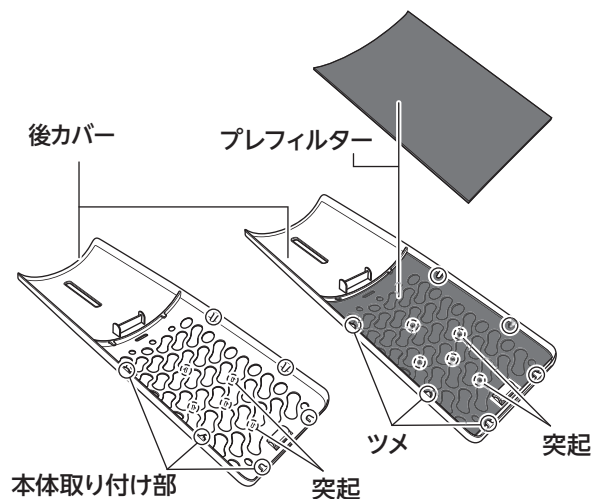
プレフィルターの交換

交換プレフィルターをお求めの際は、本体お買い上げの販売店またはドウシシャお客様相談室(裏表紙参照)にお問い合わせください。

※ プレフィルターは消耗品ですので、保証期間中でも「有料」とさせていただきます。



プレフィルターカバー



【プレフィルター】

破れたり、汚れがひどくなったり、紛失した場合などは、プレフィルターを購入してください。

※ プレフィルターは水洗いできます。

商品名：プレフィルター (1個)

PFT-CHQ121K

メーカー希望小売価格¥1,000 (税抜)

水タンクのお手入れ (週に2回以上)

水タンク内に水を入れ、水タンクキャップを締めて水タンクをよく振り、排水してください。(これを2~3回繰り返します。)

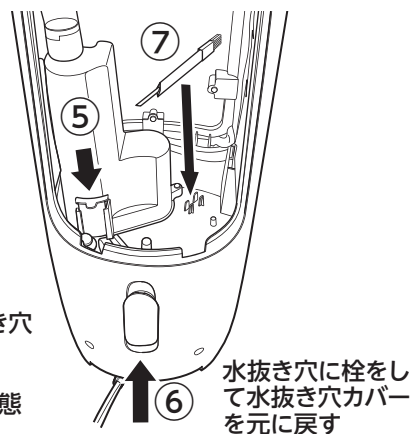
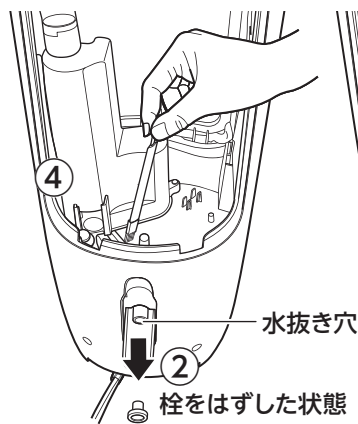
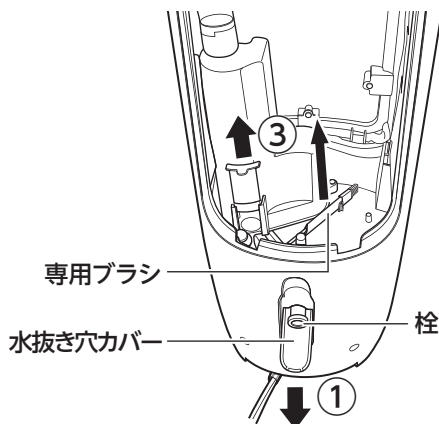
※ 水タンクは必ず水で洗う。

お湯で洗うと変形の恐れがあります。また洗剤などで洗うと故障の原因となりますので、洗剤などは使わないでください。

加湿ベースのお手入れ (週に2回以上)

水タンクをとりはずして、加湿ベース内を清掃してください。

- ①② 水抜き穴カバーを手前に倒し、栓をはずして水抜き穴から加湿ベース内に残っている水を捨てます (水を受けるバケツなどを用意してください)。
- ③ 専用ブラシを取りはずします。加湿器の超音波振動板などは左側の窓をあけると、お手入れできます。
- ④ 加湿ベースを清掃します。専用ブラシで汚れを落としてください。超音波振動板もやさしく清掃してください。水道水をペットボトルなどに入れて軽くすすぐようにします。



水タンクにカビや雑菌の繁殖が疑われる場合、下記方法にて清掃をお願いします

清掃方法

※ 流し台など水がこぼれても問題のないところで作業を行ってください。

- ① 水タンクへ水を300~500ml程度入れてください。
- ② 水タンクへ適量の台所用塩素系漂白剤を入れてください。
- ③ 水タンクキャップをしっかりと閉めてください。
- ④ 水と漂白剤を攪拌するため、水タンクを5~10回程度振ってください。
- ⑤ 水タンクのキャップ部分が下になるよう置き、30分~1時間程度放置してください。水タンクキャップが床面と接触しないよう気を付けてください。止水弁が押されると水漏れします。

⚠注意

製品本体には取り付けしないでください。

- ⑥ 水タンク内部の水を捨て、新しい水で何度か水タンクをよくすすいでください。
※ 汚れのひどいときは2回ほど繰り返してください。

※ 台所用塩素系漂白剤に記載の取り扱い上の注意をご確認ください。

- ⑤⑥ 左側の窓を閉め、水抜き穴に栓をして、水抜き穴カバーを元に戻してください。
- ⑦ 専用ブラシはきれいに洗った上で元通りの場所に取り付けておきます。

⚠注意

- ・ 洗剤などは使わない。
ひどい汚れのときは、食器用中性洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布でふきとるようにしてください。
- ・ はずした栓の扱いに注意する。
子供が口に入れたり、紛失したりしないように、清掃中、はずした栓の扱いには注意してください。

お手入れと保存 (つづき)

保存のしかた

- ※ お手入れの後、よく乾燥させてください。
- ※ ポリ袋などに入れ、取扱説明書とともに買い上げ時の箱に入れ、湿気の少ない場所に保存してください。
- ※ リモコンの電池は取りはずして別々に保存してください。

修理・サービスを依頼する前に

⚠警告 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
電源が入らない	・ 電源プラグがコンセントに差し込まれていない	電源プラグをしっかりと差し込んでください
	・ 安定した水平な場所に置かれていない (転倒オフスイッチが働いている)	置き場所を確認してください (安定した水平な場所に置く)
	・ 正しく電源が切られなかったために安全装置が働いている (10ページ参照)	本機が冷めるまでしばらく (約30分間) 待ってから、運転を開始する
	・ 安全装置 (温度ヒューズ) が働いている (4ページ参照)	販売店またはドウシシャお客様相談室 (裏表紙参照) にご連絡ください
電源ボタン (リモコン) で切にしているのに運転停止している	・ 切り忘れ防止機能で運転停止した	最終操作から約12時間経過すると、運転が自動的に停止するので、再度電源ボタンを押して運転を開始します
	・ 設定温度よりも高い温度になったので運転停止した	設定温度を今の温度よりも高い温度に変えてください
	・ ECOモードで運転中、22℃以上の温度になった	温度が22℃を下まわると運転を開始します
	・ 切タイマーが作動した	問題ありません。再度電源ボタン ^(A) を押して運転を開始させてください
運転がすぐに止まらない	・ ヒーターを冷やすため10秒程度ファンが回るようになっている	止まらないのが暖房運転後10秒程度でしたら問題ありません
カチッと音がする	・ ヒーターが膨張して音が鳴ります	問題ありません
風量が少なくなった	・ プレフィルタが汚れている	プレフィルタまわりのお手入れをしてください
暖房運転しているのに温風が出てこない	・ 室温が設定温度を超えている	室温が下がると暖房運転を再開します。さらに温めたい場合、温度設定を上げてください
タイマー設定していても加湿が止まらない	・ タイマーは加湿には使用できません	加湿量・水タンクの水量などで調節する

症状	主な原因	処置
加湿が弱い	・超音波振動板まわりが汚れている	加湿ベース、超音波振動板まわりをお手入れする
	・超音波振動板が寿命	お客様相談室にお問い合わせください
リモコンで操作できない	・リモコンの電池が切れている	リモコンの電池を交換してください
	・リモコンの電池の極性⊕⊖を間違えている	リモコンの電池の極性⊕⊖を確認して、正しく入れなおしてください
	・リモコンで電源を入れようとしている	リモコンで電源を入れることはできません
	・リモコンの操作できる範囲外から操作している	本体の受光部に近づける、受光部に対して動作できる角度で操作してください
においがする	・購入してから初めて～数回の使用	使い始めはにおいがすることがあり、数回使用することでお臭い少なくなります
	・加湿ベース内が汚れている	加湿ベース内をお手入れをする
	・長期間水をそのままにしていた	加湿ベース内や水タンクなどをお手入れをして、きれいな水に交換する

長年ご使用の加湿セラミックヒーターはよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状の時は、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室に点検をご相談ください。